

活動名	団体名	特定非営利活動法人 尾道空き家再生プロジェクト
「尾道空き家再生！夏合宿」小学生のためのツリーハウス作り体験	地域	広島県尾道市
	代表者	代表理事 豊田 雅子
	支援金額	25 万円
活動概要		
<p>尾道は住民の高齢化や過疎化により、現在では駅から 2 キロ圏内の中心地に 500 軒近い空き家が存在すると推定されている。</p> <p>我々の団体は 20～30 代のメンバーが中心となって活動しているが、これからは担っていく 10 代やそれ以下の年代の参加が少ない状況である。この活動では地域の小学生を対象としたツリーハウス作りの合宿を実施した。合宿ではツリーハウス作りのほか、尾道の魅力や現状の問題点を理解してもらうためにまちあるきを行い、野外調理や蒔き風呂などのアウトドア体験もプログラムへ組み込んだ。合宿では景観に対する意識の向上や古いものを大切にする心の育成、ものづくりの楽しさを伝えた。</p> <p>◆実施時期 時期:2012 年 7 月 24～26 日の 3 日間 場所:尾道市旧市街地</p> <p>◆参加人数 当日スタッフ・・・8 人 参加者・・・20 人 印刷物デザイン・・・2 人</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:30 名</p>		



ツリーハウスづくり



まちあるき



屋外調理



集合写真

◆実施に伴う効果

過去に、事業の一部として若年層を対象としたイベントを実施したことはあったが、小学生をメインターゲットにした企画は今回が初めての試みである。参加申し込みもどの程度あるのか読めなかったため、受け付ける人数も無理のないよう少なめに設定していたが、実際は問い合わせも殺到し、キャンセル待ちも発生した。そのことから空き家再生活動に対する若い世代からの注目度の高さがうかがえた。保護者からの推薦で参加した者もいたが、参加者の大半は能動的に参加を希望してきた者であった。そのおかげで合宿はやる気と好奇心で充ち、斜面地での生活の不便さや、不便さの中にこそある生活の面白さを積極的に学ぶことができた。

また「空き家再生」ということに参加者だけでなく、保護者からも以前に増した関心を持たれた。斜面地や商店街にある元空き家をリノベーションして作られた店や場所を紹介でき、空き家を再生する多様な動きを知ってもらうきっかけになった。その結果、合宿終了後にいくつかの場所へ再訪している様子が見られ、新たな人の流れが生まれた。自分たちの手で作った空間は愛着も湧き、保護者や兄妹、友人へも口コミするようになる。夏合宿以降、人と人とのネットワークは徐々に拡大している。

◆苦勞した点

＜予算＞

- ・参加費が安価だったため、問い合わせが殺到した。
- ・参加費が安価だったため、こちらの意図とは異なる託児目的のような申し込みもいくつか見受けられた。

＜外部へのPR＞

- ・先着順に受け付けたが、学校ごとにチラシ配布時期が異なり学校に偏りが出た。
- また、保護者から先着順の受け付けに苦情の問い合わせもあった。抽選にするべきだった。

＜参加者＞

- ・予想以上の反響があり、参加者の人数を倍にした。キャンセル待ちも続出し、対応に追われた。
- ・ホームシックになり、1人リタイアの参加者が出た。保護者との連携によりしばらくは耐えたが、やむを得ずの帰宅となった。しかし、最終日には保護者とともに訪問してくれ、完成の喜びを他の参加者と同様に嘯みしめていた。

◆今後の課題・発展の方向性

ツリーハウス作りだけでなく、食事の支度や薪風呂体験、まちあるきなどのプログラムを組み込んだため、時間的にも精神的にも余裕のない場面があった。そのため、メインであるツリーハウス作りのときに集中が途切れてしまう様子も見られ、メリハリのあるスケジュール作りの大切さを痛感した。また、スケジュールがおおしてしまい、ツリーハウスの完成がギリギリになってしまったので、今後の合宿では敢えて力を抜くような時間を組み込む必要があるとわかった。

今回のツリーハウスのように、集団で1つのものを作り上げる内容にも面白さはあるが、参加者の個性を活かして個々の表現ができるような企画も今後は実施していきたい。

過去の夏合宿で再生した2物件は今回の夏合宿の作業現場及び宿泊場所として利用した。今回作ったツリーハウスもこれから開催される夏合宿やイベント等で活用していく。

◆活動を終えての感想・意見等

真夏日の屋外作業は虫も多く慣れない大作業も大変そうであったが、少人数のチーム体制をとり、小まめな休憩を挟むよう徹底したおかげで目立った怪我や体調不良といった大きなトラブルは特に発生しなかった。食事の準備や薪風呂の湯沸しといった場面では譲り合いや助け合いの姿勢も合宿が進むにつれて見え始め、最終日には初日にはまだ幼かった責任感が頼もしく成長していた。

参加者は自分たちの生活する町の知らなかった場所やおもしろい店を知り、町への興味が高まっているようだった。斜面地での生活が持つ苦勞や不便さ、様々な問題点を合宿で実際に体験することで、身をもって理解を深め、座学だと曖昧にしかわからなかったことが伝わったように感じた。

多様な内容を盛り込んだプログラムのおかげで参加者は合宿を大いに楽しんだ様子だった。参加者や保護者から次回開催を熱望され、手応えを感じた。